

知的障害者に学びの機会と喜びを

健常者の7割が大学や専門学校に進学する時代、知的障害者の高等教育進学率はわずか0.5%です。ほとんどの知的障害者は18歳で企業に就職するか、福祉サービス事業所で作業をします。働くことの意味もよく分からず、社会人としての社会性やコミュニケーション力、感情コントロール力も育っていない18歳の知的障害者に学ぶという選択肢はなく、働くという選択肢しか存在しないのが今の日本の現状です。その結果、職場で起こる様々なことにうまく対応できず、離職してしまいます。知的障害者の就職1年後の離職率は32%。これは健常者の約3倍です。

世界では、大学で知的障害者の履修コースの設置が進められています。その契機となったのが、2006年に国連で採択された障害者権利条約です。同条約第24条(教育)に、「障害者が差別なしに一般的な高等教育を享受することができることを確保する」とうたわれ、知的障害者の高等教育を受ける権利が明確化されました。

私たちの「ゆたかカレッジ」は、知的障害者のための高校卒業後の4年間の学びの場です。とはいえ、正式な学校ではなく、障害者福祉制度を活用した疑似大学です。2年間の自立訓練サービスと2年間の就労移行支援サービスを組み合わせ、1、2年生は経済、労働、ヘルスケア、スポーツ、芸術などを学び、3年生から介護やパソコン、清掃などの実務を学んでいきます。

特別支援学校の高等部でも職業教育をしていますが、何も分からないまま就職のルールに乗せられるのではなく、働く動機を見つけ、育てることが必要です。カレッジでの4年間は、教育だけでなく、ゆっくり自分で考える時間として重要なのです。

近隣大学との共同研究やパイロット事業として、歴史学や哲学、課題研究などの授業を行ったり、レクリエーション活動や地域清掃ボランティアなどを通じて、同世代の一般学生との交流も深めています。現在、東京、神奈川、埼玉、千葉、静岡に合計9校を設置しており、約400人の知的障害者が通い、仲間たちと様々なことを学び、青春を謳歌しています。学生たちは、好きな英語から海外に興味を広げたり、「絵が好きなのでポスターのデザインをやってみたい」と仕事にも夢を膨らませていきます。

そして4年生になると、いよいよ就職に向けて企業でインターンシップを行います。これまでの卒業生150人の就職率は74%、職場定着率は89%です。

ゆたかカレッジは、今後も知的障害者の学びの場を全国に広げていきたいと考えています。